

評価項目	具体的な方策	成果◎と課題▲	自己評価		改善策	学校関係者評価		
			項目別	総合		項目別	総合	
								コメント
1 学力向上	①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実 ・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立 ・授業充実と放課後活用での個に応じた指導充実	◎55分授業のあり方や、放課後の時間の時間の活用など、本校のスタイルや特色が定着 ◎▲1・2年生は年間2回実力養成考査(南模試)を実施。大学入学共通テストで測られる「思考力・判断力・文章読解力」を求める問題を作成し、その力を養成 ◎3年生放課後セミナーでは年間を通じ完全講座制(標準・難関コース、公務員対策講座)を実施。 ◎いじめ・リクエスト相談等により早期発見・早期対応。SCによるCSの実施等、専門家を活用 ◎自宅待機等で登校できない生徒へ授業配信 ◎全生徒にGoogleアカウントを発行し、授業や探究活動等で活用 ◎生徒の個人端末の学習利用(BYOD)により、授業におけるネット活用増→生徒の授業理解の一助 ▲新教育課程に向けた、評価方法を具体的に検討 ▲クラスや部活等の人間関係で悩むことなく、学生の本分に集中できる環境整備の構築 ▲効果的なICT機器の活用および授業配信の研究	3	3	・大学入学共通テスト(2回目)はほとんどの教科で難化。高度な文章読解力やスピードが必要。南模試や定期考査作問を通じて3年間でそれらの能力を養成する必要あり ・観点別評価やテストのあり方を研究しつつ、生徒の実態にあわせた指導方法を確立。アンケートや学習時間調査の充実 ・関係職員による情報共有(悩みを抱える、配慮を要する生徒)の機会増 ・特性のある生徒が在籍するクラス担任への支援のあり方 ・ICT活用の事例紹介や研修会の実施	3.3	3.3	・創立60周年を迎える中で、南高校を囲む教育的環境は良くも悪くも激変しています。そのような中、学力向上へ向けて様々な工夫がなされ、生徒が生き生きと目の目標に燃えている状況を感じ取れます。 ・さらに、生徒一人一人に寄り添う環境が整えられ、学力向上へと繋がることを期待しています。 ・昨年もコメントしたが、「生徒の学力として表われる教師の指導力(学力)」ということを肝に銘じ、授業力・作問力の向上について一層の取組をお願いしたい。授業研究も形式的、消化試合的に行うのではなく、実質的な成果が見えるようなものにしていただくことを望む。 ・大学入学共通テストの変化に伴い先生方も情報収集では苦労されていると思います。内容を細かく精査し、また情報共有し、生徒達の指導に繋げていただけるとありがたいです。 ・しっかりと基礎学力を身につけ、進学実績に繋げ、その成果を学校内外にアピールすることが大切だと思います。 ・通常の教科指導+探究活動をたくさん熱量をもって取り組んでおられることに敬意いたします。
	②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実 ・ハイレベル講座やチームによる指導の実施	◎▲1・2年生希望者は放課後、国数英についてハイレベル講座(南セミナー)を実施。その成果をハイレベル模試(年2,3回)を受験し検証 ◎3年生希望者は九大模試(年間2~3回)、大学別オープン模試などハイレベル模試を受験。模試受験前には数英を中心に教科担任が対策講座を実施 ◎フロンティア科は2,3年次に理文混合の探究コースを設置し、少人数指導を実施 ▲3年間を見通した一貫性のある指導の在り方の構築 ▲フロンティア科探究コースの設置が3年目。検証する必要あり	3	3	・難関大学対策として早期に生徒層の掘り起こし実施。九州大学説明会、九州大学出前講座、Z会難関大対策を開催 ・卒業生の進路状況等を分析→職員全体で情報を共有→組織的に指導 ・進路指導部、フロンティア科、学年団との連携強化と学級編成のあり方の共通認識	3.5	3.4	
	③基礎学力定着指導の徹底 ・自主学習の定着指導と部活動との両立支援	◎コロナ禍における授業配信環境が充実 ▲主体的な学習の出来る生徒の育成が課題 ▲スタディサポート(「高校生のための学びの基礎診断」ツール:年2回)を導入し、基礎基本の定着状況確認、学習課題設定を計画 ▲令和4年度入学生から自然学級となることを受け、南セミナーと対照的な基礎基本定着セミナーの導入を検討	3	3	・国公立大(難関大)受験志望など生徒の希望進路に応じた定期考査問題のあり方を検討	3.5	3.5	
2 進路目標の達成	①進路指導体制の充実 ・国公立大学総合型・学校推薦型選抜制度の積極的な活用	◎推薦入試個別指導開始の前倒し、焦点化により合格率は増加 ◎SDGs関連のコーナーを設置 ◎小論文を書くために読むべき書籍・新書を増設 ◎オンラインによるオープンキャンパスやネット出願に対応 ▲コロナ禍による校外活動の機会減少 ▲人物・実績と総合評定平均値が乖離しており、国公立大推薦受験者の数が減少	3	3	・夢ナビ講義動画やライブを通じ、各大学講義動画を積極的視聴→知識量の増加 ・教科間、科目間で評価の在り方(評定)について再考	3.3	3.3	・多様化、細分化した受験対応に学校としても苦慮されたと思われるが、いろいろな取組が有機的に繋がり、成果が現れています。コロナ禍のオンライン利用や各大学との連携など実績が年々向上しています。 ・MSEC英語部門1位獲得の成果は素晴らしい。更にこの成果を次に繋げることができれば良いと思う。 ・オンラインを活用することは、選択範囲が広がると思うので様々な所に活用すると良い。より多く情報提供をすることが必要ではないだろうか。 ・外部コンクール等への積極的な参加は、社会性も身につけ、目標達成に大きな効果が期待できると思うので、是非、薦めてほしい。 ・国立大学協会が学力試験以外(総合型・学校推薦型)で3割以上入学させるようにという指針を出していることを踏まえ、定員に占める学力試験以外での入学者がさらに増えると考えられる。南高校においても、このことに対応した体制作りが望まれる。学力試験以外で大学に入ることは悪ではない。(意識の変革を)
	②外部の教育力の活用 ・産学官連携による探究活動等の推進	◎医系専門学校による医学科進学希望者の掘り起こし、指導を充実。公務員専門学校からも外部講師を招き、宮崎市消防、宮崎市役所、宮崎県庁、宮崎県警、鹿児島県警合格者輩出 ◎鹿児島大学、九州工業大学、長崎県立大学等の出前講座を多数開設し、進路研究機会の増設 ◎▲2学年探究活動において宮崎市内すべての大学と連携 ◎1学年プレゼンテーションコンテストにおいて4つの支援団体を新規開拓 ◎MSEC英語部門において1位を獲得 ◎文科省事業終了後もほとんどのコンソーシアム団体との連携継続を確約 ◎職員研修や生徒発表の審査において他校との連携強化 ◎オンラインシステムを活用することで、感染症対策を取りながら他校や大学等の外部機関と連携 ◎宮崎市内のすべての大学と連携し探究活動を実施 ◎年々、探究活動への取組や内容等が上昇 ▲外部コンクール等への積極的な参加への啓発	3	3	・オンラインをより一層活用し、出前講座の機会を増設。東大教養学部「高校生と大学生のための金曜特別講座」受講案内強化 ・課題研究を始める段階から、どの大会を目指していくかを決めて実施 ・担当教員の探究活動の指導力向上を目指した研修会の実施	3.5	3.4	・外部の教育力を活用することは大事であるが、安易に外部に頼るのではなく、教員の力量をアップさせる取組(進路指導力向上)も是非お願いしたい。 ・総合型推薦・指定校推薦・国公立の推薦等きめ細やかな指導をしていただき、一定の成果が上がっていると思います。
	③特化した進路指導体制の確立 ・連携大学等への進学を目指す生徒の育成	◎教師みらいコース会場校の利点を活かした講演会終了後の質問機会の積極活用。受講者の中から宮崎県教員希望者受験者数名あり						

		<p>◎宮崎大学、宮崎公立大学学部学科説明会を1・2年生LHRで実施。地元志向の強い生徒の進路研究機会を増設</p> <p>▲ふるさと宮崎創成コースはオンライン受講可だが、受講希望者は減少</p> <p>▲宮崎TOPセミナーや宮大企業フォーラムなど本校生のみオンラインで受講しているが参加者が特定のクラスに偏在</p>	3		3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源創成学部学校推薦型選抜の合格状況を考え、呼びかけ強化 ・担任からの発信力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大学・企業との連携を更に強化し、地元でも多くの学びができることや、地域の魅力を多くの生徒達に発信していただきたいと思います。 ・本学も含めた大学からの出前講義活用により、多くの学生が、「なんのために大学に進学するのか」、「またどの学部に進学すれば自分の希望が満たせるのか」が浸透してきているように感じます。 	
3 豊かな人間性の醸成	①部活動の更なる活性化 ・模範的な部活動の取組の成果の普及	<p>◎▲感染症予防を徹底した部活動の実施</p> <p>◎▲更衣や登下校時の感染症予防に配慮した部員の行動(分散更衣や部活動時の服装のままの下校など)</p> <p>▲「文武両道」の実践例の普及</p>	3		3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・部員によるルール作りと部員同士の連携協力 ・感染症予防対策を契機としたルールの再検討 ・優れた成果に関する体験談の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の自粛により、直接生徒達を見聞する機会はかなり減ったが、数少ない機会の中でも、成長の一步を見せてくれました。 ・生徒会活動、部活動等においても前進が見られ、生徒達も生き生きと、明るく活動していたのが印象的でした。 ・郷土愛に繋がる課題研究には、地域の課題解決に取り組むまちづくり推進委員会などから情報を取得したり、参加したりすることで、身近にある宮崎らしさを発見することができるかもしれないので活用してほしい。 ・「日焼けした秀才」「色黒の受験生」を理想と掲げて取り組んでいただきたい。 ・文武のバランスを考慮して短時間で最大の成果を出せるよう工夫することが大事だと思います。 ・生徒達が県外に出ても郷土宮崎の魅力を発信できるよう、様々な学びの機会を増やしていただきたいと思います。 ・登下校時の交通安全運動はPTAとの協働で進めてはどうかと思います。 	
	②キャリア教育等による人間教育の推進 ・郷土愛に繋がる課題研究等への積極的な取組推進	<p>◎鵬ドリカム講座(同窓会の支援)を開催。講座受講後、生徒の進路の方向性が明確になるという調査結果に基づき今後も継続の方向</p> <p>◎▲鵬イノベーションコンテスト(1年)において、終了後の継続連携依頼の増加(0団体→3団体)</p> <p>◎宮崎県のゆたかさ指標を用いた授業を実施</p> <p>◎宮崎県のSDGs達成状況を分析する授業を実施</p> <p>◎心理テスト・ピアサポート(1年)、各種の講演・配布物等で新たな気づきを増やす場を設定</p> <p>◎▲フロンティア科1年生の1学期の「総合科学」の授業にて出前講座の講師として宮崎で活躍している企業の方を招聘。鵬イノベーションコンテストや課題研究につながるような講話内容や人選の選出</p> <p>▲自身のアイデンティティを確立させ、生涯にわたって取り組める興味・関心事の発見の機会設定</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省事業終了後も「郷土に関するアンケート」を実施 ・今後も宮崎で活躍されている方を招聘し、宮崎のよさなどを知るきっかけづくりや自分にもできることがあることを知る機会の設定 ・1学年に取り組みが集中。他学年にも同様の機会を設定するよう調整 	3.5	3.5	
	③生徒の主体性を重視した取組の推進 ・生徒会活動の更なる活性化 ・キャプテン会の取組の成果の普及	<p>◎始・終業式における生徒会長からのメッセージ</p> <p>◎鵬祭における黒板アート企画</p> <p>◎60周年記念式典に伴うマスコットキャラクターオブジェ制作</p> <p>◎学校生活改善のための要望と提案</p> <p>◎各クラス生徒保健委員による新型コロナウイルス感染症防止のための手洗いの啓発や換気の徹底及び昼食時の黙食の徹底</p> <p>▲生徒会主導の問題解決型の取組増進</p> <p>▲感染防止(特に黙食)に自ら積極的な行動のとれる生徒の育成</p> <p>▲リーダーシップとフォロワーシップの強化</p>	3		<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全運動への生徒会の参加 ・級友との親睦を深める学校行事の実現(クラスマッチなどの企画) ・校則の見直しと意義の確認 ・校内放送や美化委員会による呼びかけの継続 ・部顧問会で情報共有、キャプテン会等で助言 	3.5		
4 特色・魅力ある学びの提供	<p>◎全校生徒が自信と誇りを胸に語る本校の特徴の充実・発展(キーワード)</p> <p>普通科・フロンティア科、55分授業、進路実現、探究的な学び、先進的教育、高大等連携、文武両道、生徒が主役、地域の学校、創立60周年、鵬同窓会</p>	<p>◎”教師を目指すなら宮崎南高校へ”のキャッチフレーズの下、教師みらいコース受講者各学年50名程度登録。会場校の利を生かし、1・2年生にも対面型での参加を促し、宮崎大学教育学部について、宮崎県教育委員会及び宮崎を取り巻く教育環境について早い段階から知る機会を提供</p> <p>◎地元志向が非常に強い生徒の期待に応えるべく、探究活動での地域資源的活動に加え、宮崎大学農学部・工学部とより一層連携を強め、ミニオープンキャンパス等の機会を確保</p> <p>◎▲普通科、フロンティア科の両学科において外部と連携した探究活動を実施</p> <p>◎BYOD導入により、他校に先駆けて一人一台端末の準備と運用のためのガイドラインを作成</p> <p>◎60周年記念式典の記念講演をオンラインで実施</p> <p>◎オンライン会議、Google workspace、クラッシー等の活用により、授業や探究活動の幅拡大</p> <p>◎創立60周年はコロナ禍の影響により、式典の規模縮小を余儀なくされた以外は、鵬同窓会と緊密に連携をとりながら滞りなく実施</p> <p>◎▲60周年を記念して本校の新しいキャラクター「みなびよん」が誕生</p> <p>▲生徒の個人端末が異なるため活用に限界</p> <p>▲ネットワークの安定供給とセキュリティ面の強化</p> <p>▲生徒の情報モラルの育成</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外部発信の強化 ・外部発表会への発表数の増加 ・「みなびよん」を本校の広報で有意義に活用するための方針・具体的な内容の確立 ・入学時に同一の端末を個人で購入し授業で活用するBYADの導入が必要 ・教科「情報」を初め、全教育活動で情報モラルを醸成する必要あり 	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、PTA、同窓会の三位一体の連携がうまくいき、60周年式典やその他の機会に、それぞれの力を発揮していました。 ・南高校の特色や魅力ある学びを提供していることをホームページや生徒募集時だけ知らせるのではなく、生徒自作の(仮)南高「みなびよん」だより等、地域にも発信できる開かれた学校づくりを期待します。 ・情報モラルはもちろん生活マナーの育成も重要です。 ・「特色ある学校づくり」の特色とは、他校がやっていない特別なことをやるというのではなく、学校としてやるべきことをしっかりやるという視点に立脚したものであって欲しい。学校の役割、教師の役割を十二分に果たしていることを特色にしていきたい。 ・学校のPRは今後も大きな役割を果たすので、HPの常時更新を積極的に行っていただければと思います。 ・2017年から本学と貴高校の間に連携協定が締結されております。貴高校の取組の中で「探究活動」には多少なりとの貢献はさせていただいているのかなど感じております。高大連携事業により、今まで高校生が見えていなかった「こんな学部に進学すればこんな勉強ができる」、「大学ではこんな学びがあるんだ」といったところをこれからも提供させていただければ幸いです。

(注) 4段階評価 …… 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する